

平和な世界をつくる

(原文)

林 恩綺 (14 歳)

マレーシア&台湾<神奈川県在住>

横浜市立篠原中学校

今日もいつものように学校の前の坂を下りながら空を見上げる。そして思うのだ。私はひとりじゃないと。

りむえんき、と名前を言うと多くの人が「お父さんが外国人？」と聞いてくる。嘘をつく理由はないので「うん」と答えるが誤解が生じている気がするので「お父さんはマレーシアで、お母さんは台湾と説明する。すると案の定、「えっ、日本の血は入ってないんだ」と驚かれる。そう、私には日本の血が流れていない。けれど日本で生まれ、育ってきた。それらを自分から説明するのは勇気のいることだし、相手の質問に誤解を与えることなく返答するのもなかなか難しいことだった。だからか私は自分の名前を言うのが怖かった。「外国人だから」と言われたくない。だから縮こまることにした。みんなのいる世界ではなく、自分だけの世界に。それが一番いい方法だと言い聞かせた。たとえ少しばかり窮屈でもこの方が楽だと。

でも、中学生になり、名前を言って、戸惑う人はいても「外国人なの？」と聞いてくる人はいなかった。最初は遠慮しているのだろうと思っていた。でもあるとき友だちが言ったのだ。

「りむえんき、ってなんかいい名前だよな」と。なにげない一言だったんだろう。でも私にはその一言がどんな言葉よりも響いた。私という人間を肯定してくれたように感じた。そこで私は歩いてみることにした。少しずつ近づく。友だちのもとに。周りの人が「りむ」とか「えんき」とかと呼んでくれる度に嬉しくなる。そして安心する。みんなと話すのは楽しい。そんな当たり前のようなことを実感する。

そして、ふと思った。世界はどうだろうと。友だちと話すことは私の心の支えになっている。でも、世界に自分の思ったことを言葉にできている人はどれだけいるだろうか。人に自分の思いを伝えられている人はどれだけいるのだろうか。多くはいないと思う。自分の中にため込んでいる人が大勢いるだろう。私は世界の人たち、特に子どもたちが手紙などを使ってやりとりができる環境をつくりたいと思う。SNS のような開いた場ではなく、少人数又は一対一で文通などをするような場だ。それはお互いの思いを伝え合うだけでなく、異文化について知ること自分の知らなかった世界の現状について知ることでもあるだろう。それによって世界が広がるだろうし、新しいことに興味を持つきっかけ

にもなるだろう。そして世界にいるたくさんの人について知りたい。一生の友だちをつくりたい。私たちにはそういった場が必要だ。

泣いて、笑って、安心して生活をする。そういった日常が当たり前にある。それが平和だ。平和な世界にするために私たちは伝え合わなければならない。言葉で。一緒に歩いていく友がいる。私たちがつくるのは平和な世界だ。